団体名	意見概要
根室市	● 釧路・根室・オホーツクエリアには、釧路湿原国立公園、阿寒摩周国立公園、知床国立公園の3つの国立公園に加え、網走国定公園や厚岸霧多布昆布森国定公園の2つの国定公園があり、北海道の中でも特に自然豊かな地域として広く知られている。 ● 野付半島・風蓮湖・根室半島が新たな国定公園候補地として選定されたことは大変喜ばしいことであり、国内旅行者はもちろん、インバウンド需要にも大きく貢献し観光客の誘致に追い風となることが期待される。 ● 特に、野鳥の聖地として国際的にも評価が高い「風蓮湖・春国岱」においては、国内で観察されるの半数以上にあたる約330種類の野鳥を観察することができ、冬期間にはオオワシやオジロワシなどの猛禽類やタンチョウの観察を目的に訪れる外国人旅行者が増加傾向にある。 このようなことから、冬期間に観光客の更なる増加を目指して、外国人旅行者をターゲット層にしながら地域が一体となり、広域観光に取り組むことが必要と考えており、昨年度、総務省事業で作成した、野鳥観光PR動画の効果に期待しているところである。 また、根室半島を含む地域が国定公園化された場合、交通アクセスの向上が欠かせない。 ● 旅行主体が団体客から個人客へのシフトがこれまで以上に進むことが見込まれており、個人による車両移動が増加する中、観光客の利便性の向上をはかるためにも、北海道横断自動車道根室線の早期全面開通が重要であることから、関係団体と連携して国に対して引き続きその必要性を訴えていく必要がある。 ● 野付半島・風蓮湖・根室半島の国定公園化の実現を契機に、観光産業の成長と地域の誇りを醸成する好機と捉え、豊かな自然環境と調和した広域観光の振興と地域活性化に向けた取り組みを進めることが重要。
別海町	● 国定公園化に向けた関係団体への説明と理解促進について 国定公園化に向けては、道を中心として調査や関係団体との調整が進められている中、漁業者などからは影響を懸念する声も聞かれる。こうした声に丁寧に向き合いながら、国定公園化による地域への具体的なメリットや将来的な展望を分かりやすく伝えていくことが、住民や関係者の理解・協力を得る上で重要。今後は、地域の不安に寄り添いつつ、双方向の対話を重ねていく必要があるものと考えている。 ● 協議会の活用による情報共有と機運醸成について 令和4年5月の候補地選定を受け、令和7年3月には「野付・風蓮・根室地域国定公園化協議会」が設立され、自然環境調査やシンポジウムの開催など、今後に向けた計画案も示された。この協議会を積極的に活用し、関係自治体や関係団体との間で継続的な情報共有を図るとともに、地域全体で国定公園化に向けた機運を高めていくことが重要であると考えている。 ● 公共交通とアクセスの改善による地域経済の波及について 現在、野付半島へのアクセスは夏季・冬季の観光バスに限られ、それ以外の時期や手段では訪問しづらい状況。今後、国定公園化を契機として観光需要の高まりが期待される中で、空港や市街地との二次交通の整備や利便性向上が、来訪者の満足度向上だけでなく、町内全域への経済波及効果にもつながると考える。地域全体での周遊性向上に向けた取組を進めていくことが重要。 ● 観光客増加と自然環境保全の両立について 観光客数が増加傾向にある中で、野付半島の訪問者も増加している。一方で、ゴミの投棄や立入制限区域への侵入、路上駐車が増加といった課題も顕在化している。こうした中で、訪問者と地域がともに自然を守る意識を共有することが不可欠。観光と自然環境の持続可能な両立に向けて、ルール周知やマナー啓発、地域住民との協働を通じた仕組みづくりが求められる。 ● 野生動物との共存と安全確保について 野付半島では、鹿や熊などの野生動物との遭遇が観光体験の一部として魅力にもなっている。しかし、車との衝突事故や安全上の懸念もあるため、今後は、自然と人との共生を前提とした安全対策や情報発信の強化が必要。地域ならではの生態系を守りながら、安全・安心に楽しめる観光環境の整備を進めていくべきと考える。 ● 継続的なプロモーションによる認知度向上とリピーター獲得について これまで野付半島は、テレビ番組やプロモーションビデオ、マンガの舞台など、様々なメディアで紹介されてきた。短期的な話題性にとどまらず、こうした露出が徐々に地域の認知度やリピーター獲得につながってきていると感じる。今後は、YouTubeなど個人発信による情報拡散も視野に入れ、時代の潮流に即した多様なメディア活用を図ることで、継続的な地域ブランドの浸透を目指していくことが重要。

団体名	意見概要
中標津町	地方が直面する大きな課題である人口減少問題から、地域の衰退を防ぐためには産業振興と並行して、外から人を呼び込む観光の視点による交流人口の拡大が必要であり、知床世界自然遺産、阿寒・摩周国立公園、釧路湿原国立公園の3つの国立公園に囲まれ、それに匹敵する野付・風蓮・根室半島は、道東エリアの広域周遊観光として非常に価値が高いものとする。 今回、野付・風蓮・根室半島地域が国定公園の新規候補地に選定されたことは、地域全体の「ブランド力」を高める重要な契機であり、昨年12月に道東自動車道阿寒IC～釧路西ICの開通により、根室管内への新たな観光客の流れも期待され、地域一体となったプロモーションによる魅力発信が必要。 ● 広域連携による観光プロモーションの強化 現状、根室管内の広域観光においては、知床ねむろ観光連盟が主体となってプロモーションを展開しており、各市町、関係団体においても、市町が有する観光資源や地理的特性、交通環境や知名度など、それぞれのコンセプトで地域のPR、観光振興を推進している。 今後、国定公園化を契機に根室エリアというネームバリューを高めていくためには、それぞれの枠組みでのPRとともに、北海道と連携した、より広域的なつながりに加え、交通事業者や青年会議所といった、民間企業、団体も含め、地域一体となり、スケールメリットを生かした長期的なプロモーションが出来る体制や、根室エリア、釧路エリアを合わせた、釧根エリアとして、振興局の垣根を超えた連携が重要。 ● 国定公園化を見据えた観光コンテンツの強化・創出 根室管内の観光資源である「自然・景観」は人を呼び込むうえで重要な観光コンテンツであり、国定公園化により更なる誘客が期待できるが、通過型観光から滞在型観光への転換を図る必要がある。 豊かな自然資源だけでなく、今ある観光コンテンツの磨き上げとともに、地元食材を活用したグルメ、特産品、また、釧路・根室エリアを一体化したモデルコースや、軸となる体験型観光の開発など、観光客の滞留時間を延ばすコンテンツの創出を地域一体で取り組む必要がある。 また、宿泊施設などの受け入れ基盤の強化、若い世代やインバウンド観光客へ対応するための、キャッシュレス決済の普及や多言語対応など、地域の基盤強化も重要。 ● 人手不足対策、観光人材の育成と定着 滞在型観光を促進し、地域全体の観光対応力を高めるためには、観光ガイドをはじめとした人材の確保、育成や、事業者の人手不足解消などを並行して進める必要があり、中標津町としても、外国人材の誘致や、本年2月に包括連携協定を締結した、人材総合サービスを生業とする東京の企業と連携し、雇用創出や人材定着、DXの推進等を図り、持続可能な地域社会を目指している。 ● 中標津空港を活用した国内外からの誘客 中標津空港は、東北海道の方角的入口として、根室管内のみならず、釧路、オホーツク方面と一体的に捉えることができる広域観光の拠点として利便性が高い空港である。2024年度の定期利用者数は18年ぶりに目標である20万人を達成。インバウンド増客を基軸に誘客拡大を図り、新たな目標として23万人達成を目指す。 今後、東京便の複便化や新規路線の開拓の要望。また、利便性向上のため2次交通の充実など、国定公園化を見据え管内一丸となって取り組む。
標津町	● 国定公園化により根室地域の観光客数の増加が見込まれるが、現状の宿泊施設におけるキャパシティでは不足することと、ピークにあわせた施設整備が現実的でないことなどから、増加する観光客を想定した地域全体での予習が必要と考える。 ● 特にオーバーツーリズムがすでに問題となっている地域にあっては、従来の地域住民が飲食店の利用ができなくなっていることや、名所での滞在時間を限定するなど満足度の悪影響を与える対策を強いられるケースもあり、支障事例とその対策を予習しておくのも良いかと思う。 ● 中標津空港があるため、都市圏からのアクセス自体は悪くないが、二次交通が弱いため、国定公園までのアクセスには必須レベルでレンタカーを利用することとなり、この場合、特にインバウンドにはライセンスの付与要件、道交法の事前学習、道路標識やディステーションガイドの多言語化（少なくとも英語併記）が必要。 ● 日本遺産「鮭の聖地の物語」はエリア周遊促進を提案するプログラムでもあり、国定公園化とも親和性の高いものであるが、根室エリアを網羅してガイド可能な人材を養成しておくことや、行政区域の枠を超えてガイドできる仕組みの整備により高い満足度を得られるような基盤整備も良いのではないかと考える。 ● プロモーションに使用する動画は必要と思うが、国定公園であるので国において予算付けし、例えば委託事業などにより根室地域が受託して進めるなどが良いのではないかと思う。実行の母体としては、新たな組織を立ち上げるのではなく、既存の広域的な協議体を活用してはどうか。

団体名	意見概要
羅臼町	● 当町についてはすでに、国立公園、原生自然環境保全地域、国設鳥獣保護区、森林生態系保全地域などに指定されており、その様々な法的担保が基本となり、世界自然遺産地域にも登録されている。それらの指定地域はすべてオホーツク管内の斜里町と二分しており、すでに古くから斜里町及び環境省、森林管理署、各団体など様々な機関と連携・調整をしながら多様な取り組みを進めている。 ● 広域な連携としては、昨年10月に開通した北海道東トレイルは、釧路湿原、阿寒摩周、知床の3つの国立公園をつなげる全長410kmものロングトレイルであり、国定公園化協議会の設立総会では、そのロングトレイルを根室管内にも延長して環状トレイルとする案も示されている。 ● アクティビティにおいても、バードウォッチング推進強化事業が示されてたが、当町の観光の目玉となっている冬のオジロ・オオワシ、春から夏のホエールウォッチングクルーズでは、共に海鳥の観察が多く乗客の関心と呼ぶことから、知床羅臼観光船協議会では、船上での解説に加えて、海のハンドブックを制作・販売して乗客が海鳥を識別する手助けをしている。 ● 上記のような背景、状況があり、現在国定公園協議会で提案されている多くの要素については、すでに羅臼町で取り組みが進んでいることと同様もしくは類似していることから、北海道が管内の市町の横のつながりを予算面も含めて綿密にさせていただき、かつ環境省などとの調整も緊密にさせていただければ、十分国定公園化を契機とした広域観光の振興と地域活性化につながっていくものと思料する。
根室商工会議所	野付半島・風蓮湖・根室半島の地域の国定公園化は、今後の交流人口の拡大や、観光資源の有効活用などに資すると考えられることから、積極的な推進を願うものであるが、以下のような課題やポイントがあることから、官民連携し課題解決に向けた取り組みを進める必要がある。 ● 繁忙期（夏）と閑散期（冬）の入込平準化、これを解決しないとホテル旅館等を始めとする受入基盤の整備が進まない。特に11月～4月の半年間の誘客をどう図るかが鍵。 ● 本地域は、日本の一大食料供給基地であり、広大な生産空間であることから、一次産業と観光を上手に結びつけることが重要であり、生産者にも理解を得られる。 例としては、ラムサール条約の基本である「ワイズユース（賢明な利用）」の考え方を基本に据えつつ展開することが望ましく、それに立脚した産業観光の展開も必要。 ● 二次交通網の整備の遅れなどの状況や、他の国立公園や国定公園化との連動・回遊性を考慮すると、やはりレンタカーなどを有効利用することが、最も利便性が高いと考えられることから、台数や多様な車種の確保、乗り捨て自由の片道レンタカーの導入拡大、冬期運転のサポートなどのシステムを構築することが重要。さらに小規模な道の駅態様のトイレや休息場所の設置、ビューポイントの整備なども有効ではないか。 さらに、交通安全には十分配慮しつつ、一般国道の制限速度の緩和など交通規制の見直しも検討に値すると考える。 ● 本地域は積雪は少ないものの、冷涼な期間が長いことから、悪天候時（濃霧）や寒冷な季節においても楽しめるアクティビティや施設の整備が必要と考える。

団体名	意見概要
根室管内商工会 連合会	野付半島・風蓮湖・根室半島地域の国定公園化は、商工業にビジネスチャンスの拡大をもたらし、地域全体の活性化を促す大きな契機となる。この好機を最大限に活かすため、以下の3つ取り組みが必要と考える。 ● 交流人口増加を活かす消費環境の整備 国定公園化による国内外からの観光客増加は、商業やサービス業に直接的な恩恵が期待できる。これを地域経済に深く根付かせるため、地域資源を活かした商品・サービス開発を進めることが重要（地元食材メニュー、伝統工芸品や体験プログラムなどの開発強化）。また、増加するインバウンド観光客に対応するため、飲食店や宿泊施設での多言語対応や、SNSなどを活用した多言語での情報発信を強化する。さらに、キャッシュレス決済の導入の推進や従業員の知識向上と丁寧な接客を通じて、質の高い「おもてなし」を提供し、観光客の満足度を高める必要がある。 ● 地域インフラ整備への積極的な投資 国定公園化と観光客増加に伴う交通・宿泊インフラの整備は、建設業をはじめとする工業分野に直接的な事業機会を創出できる。宿泊施設の新設・改修、観光案内所、駐車場などの整備ニーズに対し、地域内の建設関連企業が連携し、高品質なサービス提供体制の構築が必要である。 観光客向けの道路整備や交通網の拡充は、地域住民の利便性向上にも繋がる。観光と生活の双方にメリットのあるインフラ整備を促進し、地域全体の発展に貢献することで、持続可能な地域づくりにつながる。 ● 地域全体での連携強化と持続可能な観光モデルの構築 地域力を向上させるためには、個々の事業者だけでなく、地域全体での連携と長期的な視点に立った観光モデルの構築が不可欠。行政、観光協会、農業・漁業関係者、商工会議所・商工会などが異業種連携を強化し、定期的な情報共有や意見交換を通じて、新たな観光プログラムや地域産品の開発の推進が必要である。 「野付半島・風蓮湖・根室半島地域」として統一ブランドイメージを構築し、国内外に向けて共同でプロモーションを展開することで、地域の認知度と誘客力を高めていく。さらに、国定公園の豊かな自然を次世代へ引き継ぐため、環境に配慮した事業活動を積極的に取り入れる必要がある。環境に配慮した事業活動は、企業の社会的責任を果たすだけでなく、企業のイメージ向上にも繋がり、持続可能な観光モデルの実現に貢献できる。
根室管内農業 協同組合長会	● 先般、根室地区青年部組織において、北大教授らと地域の国立公園について意見交換を実施した。 国定公園については観光振興等地域力を高めていくことが期待されるが、周囲の環境変化が酪農畜産経営へどのような影響を及ぼすかといった観点からの意見交換会であった。 ● テーマはこのままとして、地域活性化の一方で環境変化に関する観点についても意見交換ができれば良いのではないかと。
根室管内漁業 協同組合長会	(当日発言)

団体名	意見概要
根室管内建設業協会	● 国定公園化の周知について 野付半島・風蓮湖・根室半島地域の国定公園化に向けた取り組みについては、根室振興局のホームページにも掲載されているが、まだまだ広く浸透しているとは言い難いと考え。機運醸成事業も行われているが、もっと地域の人々にも知ってもらうことが必要と思う。そこで特に若い人たちに興味を持ってもらえるように、小学校、中学校、高校などで授業にも取り上げてもらうような取り組みも考えてはかがか。子供たちの話題から周りの大人たちにも興味が広がり、地域全体で国定公園化への期待が高まることを願う。 ● オーバーツーリズムへの対応準備 近年、観光地でのオーバーツーリズムについての報道を目にする。SNSなどで話題になると観光客が一斉に集中することで、交通の危険性や人々の迷惑行動など、さまざまな問題が発生している。 国定公園化でこの地域においても同様な問題が発生する可能性について、検討しておくことは必要なことと考える。問題が発生してから対応策を検討するのは、対応に時間が掛かかったり重大な案件に発展することもあり得るため、地域の人々に迷惑がかかる恐れがある。ある程度想定される問題に早期に対応するために、事前に関係機関が集まり対応策を検討しておくという準備は必要ではないかと思う。 ● 交通アクセス（道路整備）の重要性 阿寒ICから釧路西ICの開通によって、利用する方からは「移動時間も幾分早くなったけれど、なにより野生動物（エゾシカ）と衝突する心配が減ったことが一番良かった」と聞く。全道的にエゾシカとの交通事故が発生しているが、やはり道東での事故は大変多く発生している。高速道路だからといってエゾシカとの事故が起こらないとは限らないが、一般道に比べて相当に安心できることは確か。 また、現在根室・釧路管内には阿寒摩周国立公園、知床国立公園、釧路湿原国立公園、厚岸霧多布昆布森国定公園と多くの自然公園がある。道路交通網が整備されると、これらの公園との連携を図ることができ、地域の魅力発信の可能性が大きくなる。 広域観光の振興と地域活性化のためには、事業実施中の尾幌糸魚沢道路を含む釧路別保ICから温根沼ICまでの北海道横断自動車道の整備が一番必要なことと考える。
知床ねむろ観光連盟	● 野付半島・風蓮湖・根室半島の国定公園化は、根室管内（知床ねむろエリア）の地域特性と親和性が高く、当連盟が令和2年度から重点的に推進している高付加価値旅行、アドベンチャートラベルと高い相乗効果を生み出すと考える。 ● しかし国定公園になっただけでは観光消費額や経済循環が向上するわけではなく、自然資源の保全という視点も踏まえると、商品価値を高めて販売して地域の収益性を向上させ、その資金を自然保護に再投資するという施策が重要となる。 ● 環境省が提唱しているネイチャーポジティブ、保護と利用の好循環を担保し、これらを活用して観光地域づくりを推進していくためには、マスに向けた一過性のプロモーションや地域外事業者への安易な外部委託等の施策は避けるべきであり、地域内の住民団体や観光組織が持続的かつ将来に対する責任を有して事業執行していくことが求められる。 ● 自然は自然だけで存在するのではなく、その価値を守り伝えていくためには、その地に生きる人々の暮らしや産業との共生が密接に関わっている。根室管内の主要産業である漁業と観光の関係強化も重要であると考え。 ● 取り組みを確実に推進するためには「単発的な施策」ではなく「施策を継続的に執行できる組織体制整備」に投資すべきであり、これらを自然保護や観光推進に必要な不可欠なインフラとして捉えた上で、新税（宿泊税）の活用や広域観光を推進する事業や組織への公的資金による支援などを改めて検討願いたい。

団体名	意見概要
大地みらい 信用金庫	● 国定公園に指定された事実のみで観光客が増加するか？ ・認知していただくための努力 → 発信方法（どのように地域一体として売り出すか） ・時期により観光客が増減するため、四季折々のコンテンツ整理 ・食（嗅覚・味覚）や歴史・文化（知的好奇心）など景観（視覚）による観光資源以外の魅力が必要となる → ガストロノミーツーリズムやアドベンチャートラベル（地域の一体感必要） ・ターゲットを国内外の富裕層（中間層以上）とするなら → プロガイド育成が必要（英語対応） ・リスクマネジメントの重要性 → 知床観光船事故、熊対策、雪崩対策での救急体制 ・ホッカイシマエビの打瀬舟や資源保護など、SDGs と絡めた観光PRの可能性 ・地元住民が「地域の価値」を理解しているか？ → 受け入れムード醸成には地元理解必要 ・産業や歴史を学ぶ観光 → 事業者側の理解や協力が必要（体験学びのストーリー→地域価値向上） ● 景観および価値の維持継続 ・ソーラーパネル規制の可否 → 釧路湿原でも問題となっているが… ・景観条例の必要性是非、空き家・廃墟問題 → 空き家の活用も同時議論（宿泊施設転用？） ・シーニックバイウェイの取り組みを利用した環境整備 → 二次交通が必須の地域ならでは ・自治体や観光業界、宿泊施設、スルーガイドなどの広域連携が必要（コンテンツを統合する） ・空港を起点とした周遊ルートや二次交通整備、宿泊施設やアクティビティの情報提供（DMO？） ・初期の由布院の取り組みは参考になるが、最近はオーバーツーリズム傾向（他国が土地購入） ・美瑛町の私有地立ち入り問題など、観光客と住民の共生（マナー啓発）